

# プログラム 近況報告

2014  
年度

(2013年10月1日  
～2014年9月30日)

ベトナム社会主義共和国  
バンエン地域開発プログラム (VNM-175040)

## チャイルド・ストーリー

### 収入が向上し、雨漏りしない 家に住むことができました

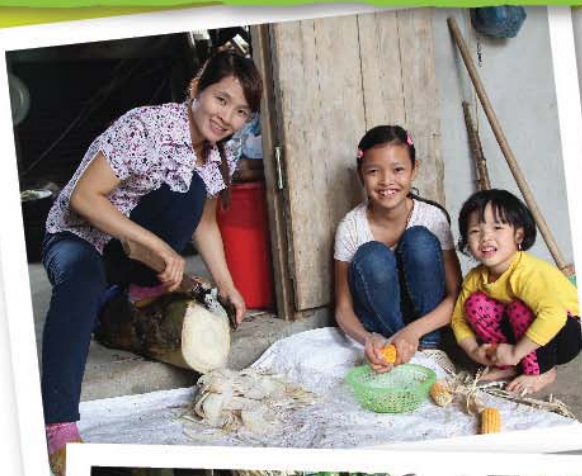
バンエン地域開発プログラム（以下、ADP）の支援地域の、山奥の貧しい村で生まれたクインちゃんは、幼い頃住んでいた草ぶき屋根の家の雨漏りがひどく、良く眠れなかったことを今でも覚えています。クインちゃんの両親は、小さな土地で稲作を営んでいましたが、収穫と収穫の間は食料を買うお金がなく、父親は日雇いで懸命に働かざるを得ませんでした。母親も幼いクインちゃんを一日中おぶって忙しく農作業や家事をしていたと言います。

そんな家族の生活は、クインちゃんが3歳の時にワールド・ビジョン（以下、WV）のチャイルドとして登録されてから変わり始めました。両親はADPが実施した畜産の指導を受け、飼育用の子豚の提供も受けて飼育を始めました。今では豚の生産により、年に1,500万ドン（704米ドル）を得ています。

クインちゃんの母親は村の栄養クラブにも加わりました。そこで栄養や育児について学ぶとともに、鶏卵を売って収入を増やすために鶏の提供を受けました。彼女は現在15羽の採卵用の雌鶏も飼育しています。

畜産により得たお金を貯蓄していたクインちゃんの両親は、2年前に家を建て替えることができました。雨漏りしない新しい家にはクインちゃんの勉強用のスペースもあります。

「日本のチャイルド・スポンサーに心から感謝しています。私の村、家族、お友だち、そして私自身も、ご支援のおかげで大きく変わりました」と笑顔で話すクインちゃん。将来は学校の先生になって村の子どもたちを教えたい、という夢を持っています。



母親と豚のえさの準備をするクインちゃん（11歳）と妹。バナナの幹を薄切りにし、トウモロコシの粒を取っています



準備したエサを豚にやります



良い成績をとったご褒美として、子豚を売ったお金で両親が自転車買ってくれました。クインちゃんは毎日その自転車で学校に通っています

## 生計向上プロジェクト

地域のすみずみ  
で助け合いのグ  
ループが結成さ  
れています



活動に参加する89世帯  
の貧困状態が解消

子どもを抱えた貧しい世帯の収入向上のため、ADPでは農民たちが作物や製品を決めて助け合いながら収入向上を目指すグループの結成を支援しています。2014年度は新たに7つの小グループが結成され、これで地域全体の小グループの数は51にまで増加しました。対象地域の中で貧困世帯と分類されていた家族のうち、368世帯の貧困状態が解消できたと郡政府は報告しています。そのうち89世帯はこの小グループのメンバーであり、プロジェクトの効果が着実に表れています。



養鶏グループで鶏の生産を始め、育てた鶏を売ったお金で子どもたちの教育費を賄えるようになりました



農業グループでは、化学肥料を購入する代わりに枯草や家畜の排せつ物を原料とした有機肥料を作る技術を学び、実践しています

## 教育プロジェクト

読み書き能力が着実  
に向上しています



読み書き計算の能力テストの結果が向上  
83.5% (2013年度) → 84.5% (2014年度)

子どもたちの教育についての関心は、地域の保護者の間で高まってきており、就学前教育のために幼稚園へ通う子どもたちの数も着実に伸びています。そのニーズに応えるために、ADPでは幼稚園の施設や設備の支援を行いました。その結果、就学前の3-5歳児の就学率が2013年の95.0%から95.9%に増加しました。

またADPでは、子どもたちの学習、特に読み書き能力の向上に取り組んでいますが、8つの小学校の5年生を対象に行った調査結果では、日常生活における読み書き計算が適切にできると判定される子どもの割合が、2013年の83.5%から84.5%に向上しています。しかし、テストの結果は全体では向上しているものの、少数民族の子どもたちの成績は相対的に低いこともわかりました。ADPでは、今後少数民族の子どもたちが多く通う学校で重点的に活動する予定です。



幼稚園で給食を食べる子どもたち



歯磨きなど衛生的な生活習慣についても学びます

## 保健衛生プロジェクト

楽しく学びながら  
栄養状態が改善さ  
れるよう工夫して  
います



対象地域内の低栄養の5歳未満児の割合が減少  
14.7% (2013年度) → 13.5% (2014年度)

ADPでは、乳幼児を抱える母親が自分たちで子どもの栄養について学び実践する、栄養クラブの設立を支援しています。2013年は37のクラブが活動していましたが、2014年度はその数がさらに増えて49になりました。クラブを通して、1,097人の子どもの栄養状態がモニタリングされています。対象地域内の5歳未満児2,540人を対象にした調査の結果、低栄養の子どもの割合が14.7%から13.5%に減少したことがわかりました。すべてのクラブはADPからの働きかけなしでも自発的に毎月定例会を持っています。そこでADPでは、毎月の例会がさらに楽しく、かつ効果的になるようゲームや芝居を活用した学習方法の指導を行いました。



栄養クラブで身近な食材を使った栄養ある食事作りを学ぶ母親たち



5歳未満の子どもの体重を毎月測定し、栄養状態のモニタリングを行います

## 指導者育成プロジェクト

支援地域内の2つの村をつなぐ道路の工事を行う人々



洪水に備えて行われた人命救助の訓練

## 地域住民自身の参加と貢献が増加しています

小規模事業の実施のための住民自身の貢献度が30~50%

2014年度も郡プログラム運営委員会と村落開発委員会のメンバーに対して、地域開発、子どもたちの持続される健全な成長、地域での事業の計画と実施の方法といったテーマについて研修や指導を行いました。それぞれの地域を担当するプログラム運営委員会のメンバーは、村落開発委員会とともに、その地域の課題やニーズを見つけて解決に向けて取り組んでいます。

その結果、村落開発委員会のメンバーから25件の小規模事業が提案され、そのうち妥当と判断された15件に対してADPが支援を行いました。それらの事業も、予算のすべてをADPに頼るのではなく、30%~50%を住民自身が資金を持ち寄りたり労働力を提供するなどして実施されるようになってきています。子どもたちの持続的で健全な成長が、地域住民自身の手で進められるようになりつつあります。

## 支援地域の女性のインタビュー

栄養クラブで野菜の栽培方法を学び、家庭菜園で野菜を育てているトウイさん(31歳)と娘のトウちゃん(8歳)



## 家畜の飼育を始めて収入が増えました

- Q. 家族構成を教えてください。
- A. 夫と夫の母親、2人の子どもの5人家族です。
- Q. 子どもの頃学校に通いましたか。
- A. 私は12年生まで学校に通いましたが、この地域の女子で12年生まで教育を受けられるケースはあまりありません。夫が学校に通ったのは9年生までです。
- Q. ADPの活動に参加してどのような変化がありましたか。
- A. 生計向上の活動に参加し、鶏や豚を飼育して繁殖させる方法について学び、養鶏と養豚を始めました。今では年間、養鶏で400~500万ドン(188~235米ドル)、養豚で2000万ドン(939米ドル)の収入を得ています。家畜を売ったお金は家族の食費、生活費、学費などにあてています。また、地域の女性や保護者たちから成る自助貯蓄グループに参加し、貯蓄しています。自助貯蓄グループでは、各メンバーが毎月3万ドン(1.4米ドル)を積み立て、必要のあるメンバーがそこから低利でお金を借りられるようになっています。これらの活動によって、私たちの暮らしは大きく変わりました。単に収入が増えただけでなく、WVは私たちの心の目を開いて、将来に希望を持てるようにしてくれました。
- Q. 今の夢を教えてください。
- A. 子どもたちが私たちの世代のような苦しい生活をするのがないようにと願っています。子どもたちがみなしっかりと教育を受け、人の役に立つ人間になることが私の夢です。



ADPの支援で養鶏も始めました。現在年間120羽ほどの鶏を生産しています

## ADPスタッフ インタビュー

- Q. ADPでどのような仕事をしていますか。
- A. 教育プロジェクトの計画、実施と報告を担当しています。支援地域の子どもたちが、幼稚園、小学校、中学校でより良い教育を受けることができるためのプロジェクトを行っています。
- Q. 家族と一緒に支援地域に住んでいますか。
- A. 夫と2人の子どもはバンエンから45キロ離れたところに住んでおり、私は単身赴任です。週末には家に帰ります。
- Q. ADPで働く原動力となっているものは何ですか。
- A. どの子どもにとっても、将来人の役に立つ良い人間に育つためには教育が重要だと思います。子どもの頃、私は教師になりたいと思っていました。今は教師ではないですが、ADPでは教育分野のスタッフとして、地域の子どもたちとその家族のために働くことができることを嬉しく思っています。



バンエンADPスタッフ 左から2人目がインタビューに答えたハ・ティ・キム・トゥ (34歳)

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動もを行っています。



子どもの集会で新年のカードを作る子どもたち

## 会計報告

### 収支計算書

自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

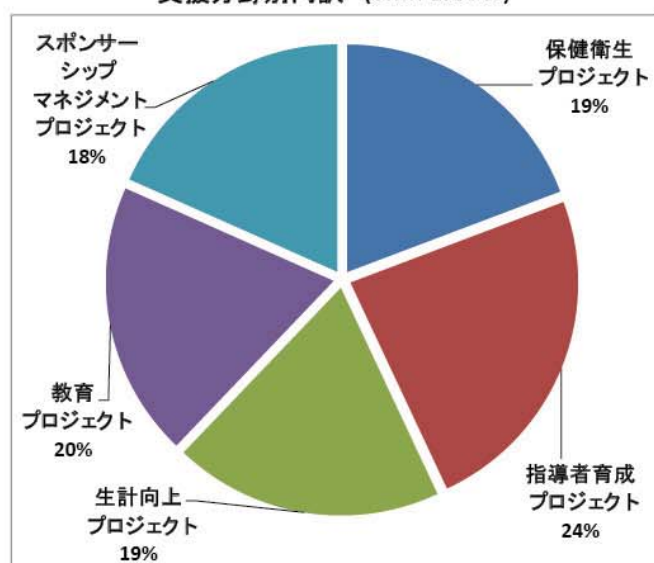
VNM-175040	
(単位: 円)	
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	40,828,096
当期支援額	40,828,096
前期繰越金	428,140
プログラム支援額合計	41,256,236

### プログラム支出額

保健衛生プロジェクト	7,702,047
指導者育成プロジェクト	9,518,052
生計向上プロジェクト	7,647,550
教育プロジェクト	7,817,341
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	7,340,736

プログラム支出額合計	40,025,726
次期繰越額	1,230,510

### 支援分野別内訳 (VNM-175040)



お問い合わせ  
特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話: 03-5334-5351 | FAX: 03-5334-5359 | Email: [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp) | ホームページ: [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)  
ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。